

ウィークリー・ブレッド・オブ・ライフ
(2024年3月11日(月)～17日(日))

岸和田聖書教会
牧師 栗原純人

「ブレッド・オブ・ライフ」とは「いのちのパン」(ヨハネ 6:48)。「わたしはいのちのパンです」と言われるイエス・キリストさまを食しましょう。今日一日の力です。以下の手順を参考に聖書を読みましょう。

1. 静まります。「しかし私は 義のうちに御顔を仰ぎ見 目覚めるとき 御姿に満ち足りるでしょう。」(詩篇 17:15)
2. 声に出してその日の聖書日課を読みます。
3. 気づいたこと、わからないことなどをノートに箇条書きし、その後『みことばの光』、このブレッド・オブ・ライフの文章を読みます。わかったことがあったら、さらに書いてみましょう。
4. もう一度、聖書日課を読みます。違う響きがあるでしょうか？
5. 祈りましょう。実際に声に出して。そして祈りの中心部分を書いてみましょう。一日の終わりに、今朝の聖書を思い起こし、みことばがどのように生きたか、思い巡らしましょう。

今週からイースターの次の日(4/1)までマタイの福音書を読み続けます。十字架のイエスさま、復活のイエスさまに出会いましょう。

3月11日(月)

今日の聖書日課：マタイ 23:1～14

だれでも、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされます。

マタイ 23:12

神抜きで自分を高くする者は神によって低くされます。そして神の前で自分の本当の姿を知り、自分を低くする者は神によって高くされるのです。神を信頼する人は、低くなろうが、高くなろうが、そんなことはどうでもいいことなのです。ただ、自分が神に愛されている。こんな罪人の私が愛されている。それだけで満足なのです。満ち足りているのです。

3月12日(火) 今日から15日(金)までKGK春期学校(キャンプ)私たちの教会からは3名の学生が参加します。

今日の聖書日課：マタイ 23:15～26

わざわざだ、偽善の律法学者、パリサイ人。おまえたちは杯や皿の外側はきよめるが、内側は強欲と放縦で満ちている。目の見えないパリサイ人。まず、杯の内側をきよめよ。そうすれば外側もきよくなる。

マタイ 23:25～26

外側・内側。繰り返して語られています。しかし最初のことばは外側と内側が何の関わりもないことを示し、次のことばは内側が外側に影響を与える、とされています。外側とは人が見るところ、内側とは神が見るところ。昨日と同じ。神の前での自分の姿を認め、神のあわれみと赦しを受けるとき、内側がきよめられるとき、外側もきよめられます。その外側を人は見るのです。そしてあなたを通して、神を知ることになるでしょう。

3月13日(水) 今晚は7:30から「和歌山伝道祈祷会」オンラインです。

今日の聖書日課：マタイ 23:27～39

エルサレム、エルサレム。預言者たちを殺し、自分に遣わされた人たちを石で打つ者よ。わたしは何度、めんどりがひなを翼の下に集めるように、おまえの子らを集めようとしたことか。それなのに、おまえたちはそれを望まなかった。

マタイ 23 : 37

これまでの長い歴史において創造主なる神が、エルサレム=イスラエル、罪深い民を預言者たちを通してご自分のもとに集めよう、救おうとされました。しかし、彼らはその預言者を殺し、殺し続けました。神に背を向け続けたのです。今日注目したいのは、「わたし」ということば。イエスがご自分のことを「わたし」と言っています。イエスはここで、あの、創造主なる神が、長い歴史の中でイスラエルを救おうと忍耐して来られた神が、ご自分であることを示しているのです。まことにこの方こそ、人となられた神なのです。

3月14日（木）

今日の聖書日課：マタイ 24 : 1~14

しかし、最後まで耐え忍ぶ人は救われます。

マタイ 24 : 13

一度救われた人の救いがなくなる可能性がある、ということではありません。恵みのうちに救われた者が苦難・迫害の中で主イエスから目を離さず耐え忍ぶとき、そこに救いのリアリティが表されるのです。神抜きの「我慢」ではなく、神とともにおられる、その中で「忍耐」するのです。主を信じて良かった。私たちがそう思えるのは苦しみの中にこそあるのです。

3月15日（金）

今日の聖書日課：マタイ 24 : 15~28

いいですか。わたしはあなたがたに前もって話しました。

マタイ 24 : 25

そうです。イエスは弟子たちに前もって話したのです。今読んでいるのは終末=イエスが再臨される時に起こるべきことについて。しかしイエスが前もって話したのはそれだけではありませんでした。ご自分がユダヤ教の指導者たちによって捕えられ、十字架につけられ死に、三日目によみがえること。一度だけではありません。マタイでは三度もはっきりと語られました。前もって。しかし、弟子たちは、イエスが死んだ時、だれもそのことを覚えていませんでした。というよりもあまりにもショックなできごと、主のことばを思いつくことすらできなかったのです。今、私たちは死んで、殺されてよみがえられた主イエスに出会い、この方を信じました。信じています。それならば、余計にこの「前もって話しました」を心に留めるべきです。パウロは自分が生きているときに再臨が来ると本気で信じていました。私たちはどうでしょうか？前もって語られたイエスさまのことばをしっかりと聞き続けましょう。

3月9日（土）

今日の聖書日課：マタイ 24 : 29~51

天地は消え去ります。しかし、わたしのことばは決して消え去ることがありません。

マタイ 24 : 35

決して消え去らないのは神ご自身。そしてその方のことば。私たちはどこまでも神さまとのみことばを放さずに歩いていきましょう。

3月17日（日）主日礼拝説教箇所：ローマ 8 : 18~32 鈴木雅也 hi-b.a.スタッフの説教
「望みを抱いてうめこうよ」。和歌山ではピアノコンサート。ともに祝されますように。